

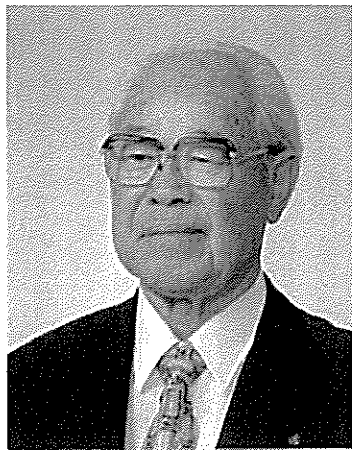
# ふくしま県人会だより

第31号  
平成27年3月  
福島県人会  
北海道連合会

## 連合会会長あいさつ

福島県人会北海道連合会会長

神野 修



会員、ご家族の皆様新年おめでとうございます。

昭和の年で云いますと、今年も九十年となりました。私たち人生も八十年となり、時の流れとともに世界一の長寿国家となり、それと共に科学（化学）技術の長足の発展は、国民生活に便利さと危険さをもたら

しました。私たちの郷土福島はこの危険に脅かされ、既に三年の年月を経ても平安が訪れないでおりますことにお慰めいたします。

今年度は、北海道新幹線が開通し北海道と本州が一本に結ばれ郷土が益々近くなりましたが、郷土を捨てて多数の方々が県外に移住された実情に接し、心が痛みます。一刻も早い復興・復旧を心からお祈りします。

昨年、所用で利尻町、利尻富士町を訪れましたので、この島に眠る北方警備の任務で駐屯した会津藩士のお墓にお参りしました。すでに子孫の方はなくさびしいお墓でないだろうかと思つたのですが、両町にある三箇所のお墓は島の方々のお守りで、墓所が綺麗に整備され、お花も供えられていました。私も町内の方が用意してくださったお花を供えさせていただきました。

利尻富士町の鷹泊ベシ岬の墓は

高台に、また同じ鷹泊の墓は慈教寺境内に、利尻町にあるお墓は公園に会津の石に藩士の功績を刻した顕彰碑とともに、いずれも町民の方々がお守りしてくださって、町民の方々のあたたかさに触れ、胸が熱くなるのを覚えました。

その上、利尻富士町教育委員会の学芸課長が会津藩士の歴史を伝承されて、いろいろなご説明を頂き、この町の、島の人々の暖かいお心に接しました。丁度十月の末で海も荒れて船も欠航しましたが白波たつ海を見ながら感無量でした。

福島県人の温かさ、誠実さ、忍耐強さと絆で、この一年がどうぞご多幸でありますようにお祈りし、新年のご挨拶とします。

## 福島県知事あいさつ

福島県知事 内堀 雅雄

昭和四十八年の連合会発足以来、ふるさとを同じくする方々の心によりどころとして、会員相互の交流を深めながら、着実に発展を続けら



れておりますことは、誠に喜ばしい限りであり、会員の皆さんのふるさとを想う御熱意に心から敬意を表します。また、皆さんには、本県に格別のお力添えを賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年十一月、多くの県民の皆さんからご支持をいただき、県政を担うこととなりました。早速、福島第一原発を視察したほか、市町村長との意見交換、総理や各大臣への要望活動など、「現場主義」を基本姿勢に据え、積極的に現場に足を運んでまいりました。今後とも、市町村や地域の声をしっかりと受け止めて、県政に反映してまいる決意であります。

震災から間もなく四年を迎えます。今なお十二万人もの県民の皆さんが避難生活を続け、原発事故の完

全収束に向けた課題も多く、厳しい状況が続いております。

その一方、インフラの復旧・整備が進み、福島県の未来を支える研究・開発拠点の開所や着工、企業の経済活動や観光地のにぎわいの回復など、各地で復興の光が少しずつ見え始めてきました。

今年は、復興の序章から新たなステージへと進めていく年であり、ます。復興が着実に実感できるよう、スピード感を持って取り組んでまいります。

中でも、避難地域の再生は最優先の課題であります。環境回復や生活再建・安定への取り組みはもちろん、農林水産業や商工業などの再生をしっかりと進めるとともに、廃炉に集結する世界レベルの先端技術を種々に革新的な新産業を生み出す「イノベーション」にも取り組んでまいります。

また、国、市町村と一体となって避難地域の将来像の検討を進め、復興施策全体の基盤となる「復興計画」の見直しにも着手いたします。

さらに、福島の将来を担う子どものための政策にも力を入れてまいります。子どもの持つ潜在力を大き

く開花させられるよう、教育環境を充実させるとともに、地域全体で子どもを育む社会づくりを進め、日本一安心して子育てのできる県づくりを目指してまいります。

このほかにも、風評・風化への対策、避難者支援、社会生活基盤の整備、地方創生への対応など課題は山積しておりますが、こうしたさまざま課題に進取の気概を持って果敢に取り組んでまいりたいと考えております。

「任んで良かった・来て良かったと思える豊かな「ふくしま」」を築くため、「ふくしまから、チャレンジ、はじめよう。」の下、全力で県政を運営してまいりますので、県人会の皆さんには、今後とも一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

終わりに、福島県人会北海道連合会の限らない発展と、会員の皆さんの今後ますますのご健勝、ご活躍を心からお祈りいたしました。あいなつといたします。

## 会員通信

美幌福島県人会創立四十周年総会  
に参加して

美幌福島県人会

顧問 打地 健一

道東の地も緑につつまれて居た阿寒の連山もいつの間にか木枯らしが舞う季節に相なりやがて白色の冬将軍が来るのも間近い事と思われる今日この頃、去る二十六年二月二十二日、美幌福島県人会第四十周年記念総会が開催され、当日、北海道議会議員 高橋文明様、県北海道事務所長 真壁勇様御出席のなか実施されました。席上、会長経験者として会長より感謝状を授与され、これも会員皆様方の積極的な協力と助言があったものと推察致します。顧みますれば北海道連合会総会、道東地区合同観楓会、美幌観光和牛まつり、美幌ふるさと祭り参加出展等々の会員参加の勧誘、また、東日本大震災義援金等、諸行事が走馬燈のように頭の中を掛け巡り、当時四家族の方々が避難され諸行事

に参加されたことはよい思い出となつて居ります。現在福島県浪江町より吉田御夫妻(御子様)が農業研修のため研修センターに入所三年後に美幌にて農家として定着する予定とか、会員一同全員で応援いたします。

宴もますます盛り上がり美酒に酔いしれ和気相々の中それぞれのカラオケにのどを競いそのたび相手が鳴りひびく、そのような光景を見るにつれ、これからも顧問として引き続き県人会会員相互の親近感、発展、親睦をはかり、会長はじめ役員相互の今後のご健闘を祈ることは言うまでもない。



## 北海道に移住して就農

美幌福島県人会 吉田 武薫

いよいよ本格的な冬の訪れを感じさせてくれる季節となりました。朝目が覚めても、妻が薪ストーブに火をつけ、部屋が暖まるまでは、なかなか布団からでる覚悟を決められない朝が増えてまいりました。

私は平成二十四年四月に、農業に魅力を感じ、十五年間勤めた会社を退職し、妻、子供二人の五人で美幌町へ移住してまいりました。

三年近く研修をさせていただき、ようやく新規就農できることとなりました。

しかし、新規就農は、農地、農業機械を一からそろえなくてはならないため、決してハードルは低くありません。今回私は、離農される農家さんの跡を継承させていただき、形で無事就農にこぎつけました。様々な研修を通じ、北海道各地に新規就農者の仲間を作ることができ、時折連絡を取り、お互いの近況を報告し合っておりですが、農地が見つからないとか、見つかったはいいが開墾からという者の中には居りま

す。そんな中、自分自身は恵まれた環境にいるとつくづく感じております。

ご縁があり、福島県人会へ入会させていただき、時折皆様との交流の場に参加させていただいてきました。が、とても温かい雰囲気の中に、家族共々いつも行事を楽しみにしております。私は北海道に親戚がおりませんが、会に参加させていただくと、親戚の家で皆でお酒を飲みながら語り合う光景を思い出します。

北海道へ移住する際は、両親からは大反対されましたが、今こうして無事就農までたどり着け、福島県人会で知り合った方々や、地域の農家さん達に温かく接していただいている状況から、両親も今は応援してくるようになりました。

日本では少子高齢化で、人口減少が進む中、世界人口は増加の一途をたどっており、食糧生産は、より重要になってまいります。今後の子供たちが、安心して食事ができ、その子供達に、将来の夢を「農業」と自信を持って言ってもらえるような農業を自分は目指して努力してまいります。

## 新会長に小山直子副会長を選任

〈二十七年総会・新年会開催〉

函館福島県人会

去る一月十三日(火)午後五時から二十七年総会・新年会を湯元啄木亭で開催しました。

総会には会員十六名と県北海道事務所から眞壁所長が出席されました。

熊坂会長は挨拶で、昨年六月七日(土)に当会が幹事となり開催した第四十二回福島県人会北海道連合会函館大会が、みなさんのご協力により盛況裡に終了できたことあらためて深く感謝の意を表しました。

議長に小山副会長を選出し議事が進行され、新年度の事業計画や収支予算案など議案は提案どおり可決承認されました。そして役員改選では、熊坂会長が顧問に就任し、新会長に小山直子副会長が選任されました。

総会後の新年会では景品付きのビンゴゲームなどで盛り上がり楽しい一夜を過ごしました。

## OBからの便り

皆様との再会を夢見て「乾杯！」

福島県北海道事務所

第十六代次長 川島 俊和

福島県人会の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

私は、平成二十三年六月から二十六年三月まで福島県北海道事務所に勤務いたしました。初めての単身赴任でとても不安でしたが、六月はライラックや新緑が迎えてくれ、北海道の雄大さに改めて感動した記憶があります。周囲の方々からも「いい時期に来たね!」と励まされ、ホームシックも二日目には解消していました。

県人会の皆様には大変お世話になりました。各地区の県人会総会に参加させていただき、夜通し母県の思い出話を伺え、さらに、名所案内やおいしい食べ物をごちそうになりました。また、パークゴルフ大会や、会津藩士の慰霊祭、県産もの販売や、和牛まつり参加など、イベ

ントや地域の文化にも触れることができ、今まで気づかなかった母島の良さや歴史を気づかされ、大変成長させていただきました。

現在、私は、福島県北農林事務所企画部に勤務し、農業振興に取り組んでいます。当管内は、福島県の北部（宮城県の県境）に位置し、福島市、伊達市、二本松市、本宮市、川俣町、桑折町、国見町、大玉村の四市三町一村になります。農作物の産地としては、果樹を中心とした農業が盛んな地域です。北海道の皆様には、当管内のJAから桃を始め、アサツキ、ニラ、シュンギク、イチゴ、また、昨年度からは三年ぶりに再開モデル地区を設定し出荷が開始された、あんぼ柿の産地でもあります。（蛇足ですが、あんぼ柿の発祥は、当管内の伊達市梁川町五十沢（いさざわ）地区で、九十年を越える歴史があります。）業務としては、農産物の風評払拭や、地域産業六次化の推進、また、グリーン・ツーリズムの支援、農地の調整を行っています。勉強の毎日ですが本島の再生に向けてがんばっております。時には、視察対応でJAの桃の選果場に行った時「北海道の県人会の皆様

おいしく食べてもらうんだよ！」とそつと桃に話かけて一人で苦笑したりもしています。

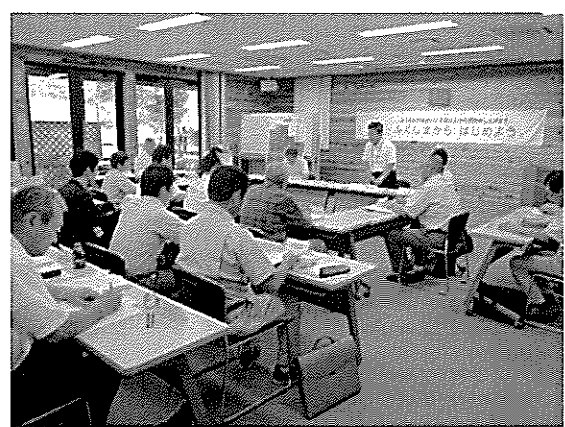
さて、近況ですがNHK連続テレビ小説「マッサン」を見て毎日北海道を思い出しています。北海道に渡った会津人との交流や余市町に根付いたりんこの話が出て、さらに親近感がアップしました。機会があり北海道勤務時代に（平成二十五年十一月）、余市町ニツカ北海道工場の「ニツカウエスキー 余市マイウイスキーづくり」に参加し、樽のウイスキー詰めを経験してきました。今この樽はニツカ工場で悠久の時間を刻んでおり、十年後ボトリングされることとなっております。毎年、指を折りながら、ウイスキーが届く日を楽しみにしており、福島に居ながら北海道を満喫しております。発災から五年目になります。さらに、復興の加速をあげ、皆様に安心していただけるよう母島の再生にまい進していきます。長い取り組みではありますが、確実に前進しますので、今後とも母島の応援をお願いします。そして、是非、福島に足を伸ばす機会がございましたら連絡ください。

それでは、皆様、健康に留意されご活躍を祈念申し上げます。皆様との再会を夢見て「乾杯！」

（平成二十三年六月）

平成二十六年三月

福島県北海道事務所在籍



## 新会員の紹介

### 札幌福島県人会

- 永山 弘子（出身 三春町）
- 武田 道子（出身 いわき市）
- 高橋 磐男（出身 西会津町）

### 函館福島県人会

- 猪狩 司（出身 南相馬市）
- 猪狩 紹子（出身 南相馬市）

### 旭川福島県人会

- 小野 智正（出身 会津坂下町）
- 目黒 匡（出身 三島町）

### 美幌福島県人会

- 吉田 武薫（出身 伊達市）
- 舟橋 光雄
- 照井 歌子
- 吉田 良子（出身 伊達市）

### 苫小牧福島県人会

- 阿久津 修（出身 相馬市）
- 斉藤 美千代（出身 郡山市）
- 佐藤 卓也（出身 南会津町）

（敬称略）

# 平成二十七年年度

## 連合会総会のお知らせ

去る平成二十七年一月十九日に札幌市で開催された連合会役員会において、平成二十七年年度福島県人会連合会総会を苫小牧市で開催することが決定しました。

皆様お誘い合わせの上、是非御出席いただきますようお願いいたします。

### ○開催日

平成二十七年五月三十日(土)  
～ 三十一日(日)

### ○場所

「グラントホテルニュー王子」  
(苫小牧市表町四丁目3-1)

## 母県からのお知らせ

「ふくしまステイネーション

キャンペーン」について

平成27年4～6月に、「ふくしまステイネーションキャンペーン」

(ふくしまDC)が開催されます。ステイネーションキャンペーンとは、JRと観光関係者・自治体が共同、一体となって作り上げる大型観光キャンペーンです。福島県全県での取組は、今回が14年ぶりとなります。

福島県が復興に向かっていく姿や福島県のすばらしさを全国の多くの皆様に知っていただけるよう、県内各地で様々なイベントが開催されます。パンフレット等が必要な場合は北海道事務所にご連絡ください。

なお、期間終了後も、福島に來られる全国のみなさまを様々なおもてなしでお迎えします。

福島県人会北海道連合会では、平成二十七年年度の事業として今年秋頃に「母県訪問」を企画したいと考えております。企画内容が決まり次第、会員の皆様にお知らせいたしますので、是非御参加いただくようお願いいたします。

## 東日本大震災追悼復興祈念式

東日本大震災から丸四年となつた三月十一日、福島市において「東日本大震災追悼復興祈念式」が開催されました。

式には、遺族の方をはじめ、国会議員、県議会議員、市町村関係者など約三百三十人が出席しました。

震災が発生した午後二時四十分、黙とうを捧げ犠牲者を悼みました。

式では、内堀知事が「ふくしまの未来を創るため、今こそ私たち県民が強さを見せるべきです。どんな困難なことにも力を合わせて挑戦し、あしたのふくしまを切り拓いていきますしよう」とメッセージ(※)を発信したほか、遺族代表の方からの追悼の言葉、参列者代表の献花が行われました。

また、女優の白羽ゆりさん(福島市出身)による県内の高校生らが作った追悼詩の朗読やヴァイリオニストの伊藤佳奈子さんによる慰霊の音楽演奏も行われました。

※次ページに知事メッセージを掲載しました。



白羽ゆりさんによる追悼詩朗読

伊藤佳奈子さんによる慰霊の音楽演奏



ふくしまの未来へ2015

～3月11日知事メッセージ～



# ふくしまの未来へ 2015

～3月11日知事メッセージ～

『祖父は友達を助けるために、海へ向かって車を走らせた。

今でも後悔しています。

私が止めていたら、助かっていたのではないのかと。』……………ある高校生の後悔

『震災から何日かたって初めて、原子力発電所の話をお父ちゃんから聞きました。

お父ちゃんは1か月分の新聞を全部とじて、大切にしまいこみました。

「大きくなった時に出して見てくれよな」と言いました。』……………ある小学生の体験

12万人の県民がふるさとを離れた地で、5度目の春を迎えようとしています。

私たちは、風評の固定化と記憶の風化という、目に見えない困難や不安と戦っています。

失ったものは戻らず、悲しみは消えない。

心の溝が埋まらず、地域の分断や孤立化も生じています。

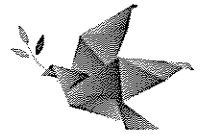
一方、ふくしまを照らす光が、少しずつ大きくなってきました。

復興の追い風となる常磐自動車道の全線開通、

ふくしまの美しい自然を取り戻すための研究拠点の整備、

地域の宝を生かした教育旅行の再生も始まっています。

これまでの県民の皆さんのご努力に、心から敬意を表します。



『私は、今年新設される「ふたば未来学園」を志願しています。

将来は少しでもふくしまが元気になる仕事に就きたいと考えています。』……………ある中学生の夢

『県民の中には今でも、一緒に暮らせない家族がたくさんいることを忘れてはならない。

私は、家族でずっとふくしまを応援していく。』……………県外の方からの励まし

私たちは、多くの方々の温かいご支援への感謝を胸に刻み、

夢や希望の実現に向け、自分の足で立ち上がり、一歩ずつ前に進んでいかなければなりません。

廃炉作業の拠点となったJヴィレッジを、

緑輝く美しいグラウンドに戻す取り組みが始まったように、

ふくしまの復興は新たなステージに進もうとしています。

復興の歩みをより確かなものにするため、必要なものは何でしょうか。

それは、私たち一人ひとりが、未来に向かって挑戦していくことだと思います。

私の復興に向けた挑戦は、

県内原発の全基廃炉を求め、再生可能エネルギー先駆けの地を創ること。

世界の叡智を集め、除染・廃炉技術、医療機器・ロボット開発などを進めることで、

世界に貢献していくこと。

子どもたちの笑顔が輝く環境を整えること。

県民一人ひとりが、ふくしまに生まれたことを誇りに思えること。

『ふくしま創生の物語が、今、始まる。学ぶことこそが、未来を創造する。

学ぶことによって私たちは、未来とつながる。』……………ある教師の決意

ふくしまの未来を創るため、今こそ私たち県民が強さを見せるときです。

どんな困難なことにも力を合わせて挑戦し、あしたのふくしまを切り拓いていきましょう。

平成27年3月11日



福島県知事 内堀雅雄